

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数の予測（2007年2月）

発表日：2007年3月30日（金）

～ D I一致指数は16.7%と、2ヵ月連続の50%割れに ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ D I 先行指数は 30.0%、D I 一致指数は 16.7%を予想

3月30日時点で公表されている統計により2月の景気動向指数（4月6日公表予定）の予想を行った。

D I 先行指数は 10 指標中 3 指標（最終需要財在庫率指数、東証株価指数、中小企業売上げ見通し D. I.）が 3 ヶ月前比改善、7 指標が悪化しており、30.0%が予想される。また、D I 一致指数は、9 指標中 1 指標（製造業所定外労働時間指数）が改善、1 指標（商業販売額指数（小売業））が保合い、7 指標が悪化になるとみられ、D I 一致指数は 16.7%が予想される。（個別指標の動向については図表を参照）。

	系列名	2006												2007	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
先行 系 列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	-	+	+
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-
	新規求人数(除学卒)	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	+	+	-
	新設住宅着工床面積	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	-	-
	耐久消費財出荷指数(前年比)	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-	0	-	-
	消費者態度指数	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	+	-	0	-
	日経商品指数(42種総合)ー前年比	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
	長短金利差	0	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	東証株価指数(前年比)	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+
	投資環境指数(製造業)	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	中小企業売上げ見通しD. I.	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	+	+
先行指数		79.2	91.7	50.0	50.0	79.2	58.3	33.3	25.0	25.0	58.3	25.0	37.5	40.9	30.0
一 致 系 列	生産指数(鉱工業)	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0	-
	生産財出荷指数(鉱工業)	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
	大口電力使用量	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
	稼働率指数(製造業)	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	+	-	-
	所定外労働時間指数(製造業)	+	+	+	+	+	+	0	-	-	+	+	+	+	+
	投資財出荷指数(除輸送機械)	-	-	-	+	+	+	+	+	-	0	0	+	-	-
	商業販売額指数(小売業)ー前年比	0	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	0
	商業販売額指数(卸売業)ー前年比	+	+	-	-	+	+	+	-	-	+	-	-	-	-
	営業利益(全産業)	-	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-
	中小企業売上高(製造業)	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
有効求人倍率(除学卒)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	
一致指数		77.3	45.5	27.3	81.8	81.8	90.9	77.3	81.8	54.5	68.2	59.1	63.6	45.0	16.7

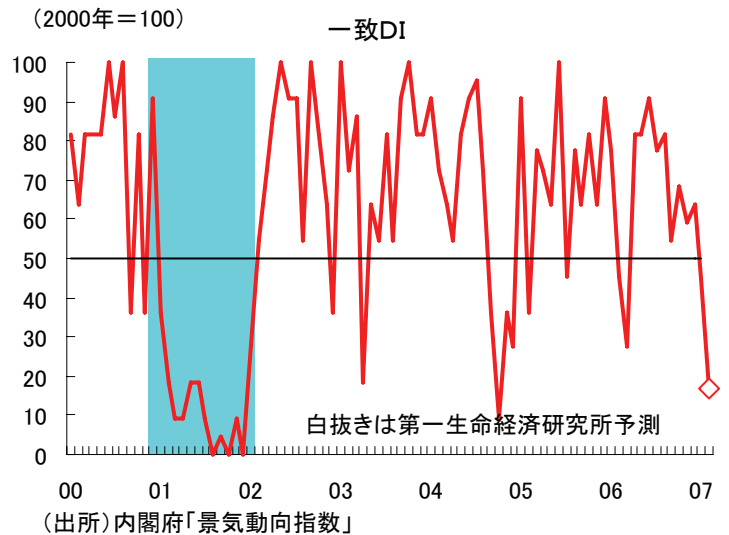
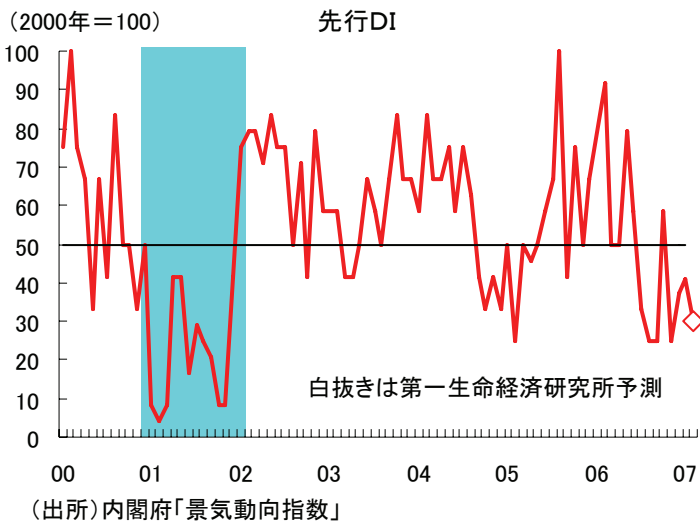
(出所) 内閣府「景気動向指数」

(注) 1. 3ヵ月前の値と比較して改善は+、横ばいは0、悪化は-として表示。
2. 網掛けは第一生命経済研究所予測値。

D I 一致指数は 16.7%と、1月に続いて 50%を割り込んだと予想される。本日公表された2月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2ヵ月連続で低下し、1-3月期の生産も6四半期ぶりに減少する可能性が高いことなどとも整合的である。年明け以降、景気に一服感が出ていることを確認させる内容といえそうだ。簡易的な判断基準として、D I 一致指数が3ヵ月連続で50%を下回れば景気後退と言われることがあるため、先行きの景気後退局面入りを予想する声も今後増えてくると予想される。

もっとも、このままD I 一致指数が50%を割り続け、景気後退局面入りする可能性は小さいと思われる。

1-3月期の鉱工業生産は前期比減少が見込まれているが、減少幅は小幅にとどまると予想される。10-12月期に高い伸びだったことを考えると、反動減の範囲内とあって良いだろう。3、4月の製造工業生産予測指数は前月比+1.5%、+1.3%とそれぞれ増加が予想されており、生産が先行き落ち込んでいく姿は想定されていない。また、本日公表の家計調査では1-3月期の個人消費が高い伸びになる可能性が示されており、1-3月期のGDPについても、10-12月期に続いて堅調に推移する可能性が徐々に高まってきている。こうしたことを考えると、2007年前半に生じる景気減速はかなり軽微なものにとどまると予想でき、景気後退局面入りは避けられるだろう。DI一致指数は、当面50%近傍の推移を続けた後、2007年後半には再び50%を安定的に上回ってくると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。